

食いしん防災コミュニティ部会がいく！

(第43回 2021年12月)



小学校時代の思い出話を3回も続けてしまったこのコーナー。ネタ切れとの噂もあるが、今回はストレートに防災絡みの話題でいく。

食いしん防がかつて消防団員だった時、最初に教えられたのが「この世に安全は存在しない」という恐るべき真実。「100%安全」な場所などというものはない。安全と言われている場所は「比較的危険が少ない」にすぎない、というのだ。

確かに、誰もが「安全」と考える自宅にしても、100%安全なわけではない。階段から落ちることもあるし、風呂場やトイレは住宅で死亡する場所のトップである。居間でくつろいでいるところにトラックが突っ込んでくるかもしれないし、包丁を持った強盗が押し入ってくるかもしれないし、隕石や飛行機が落ちてくるかもしれない。可能性は低くてもゼロではないのだ。

ではここで三択クイズを1つ。「公園に置き忘れられていた道具につきまずいてケガをした。1番悪いのは誰か？ ①置き忘れた人 ②公園の管理者 ③ケガをした本人」



これは消防団の初任者研修で出された問題。普通に考えると①か②だろう。食いしん防もそう考えた。ところが防災における正解は③。なぜか。①と②では、安全を他人任せにしていることになる。自分の安全は自分で守るしかないのだ。この理屈を聞くと納得する。自分の安全は、決して他人任せにしてはならないのだ。

先のクイズでは、さらにこう解説が続く。「置き忘れられている道具を危険だと思ったら、気づいた者が片付ける」……この考え方こそ防災の基本！

この研修を受けたのはかれこれ20年ほど昔になるが、いまだに強烈に覚えている。自主防災も同じことだ。「なんでわしらがやらなあかんねん。防災は行政がすることとちゃうんか」と言われる方がいますが、これは自分の命を守るのを他人任せにする考え。痛い目に遭ってから他人に文句を言ってもしょうがない。自分でできることは自分でするのが自主防災だ。



最初の話に戻ると、災害現場において「安全な場所」は存在しない。避難所も含めて、すべての場所がふだんより危険度が確実にアップする。災害時に「避難する」のは、「少しでも危険が少ない場所へ移動する」ことだ。そして「危険なもの」に気づいたら、気づいた者が対処する。自分でするのが無理なら、できる人に連絡する。危険に気づいていながら黙っているのが、実は1番悪い。

どうです。たまには真面目に防災のことも語れる食いしん防なのであった。

TOPICS

☆こと防支所ブロックが今年度の活動方針を決める

湖東地区防災ネットワークの支所ブロック（湖東中学など支所周辺の施設を主な避難所とする近隣自治会で構成）が会議を開き、今年度の活動方針を話し合った。

こと防の中で、構成する自治会が3学区にまたがる唯一のブロックであるここは、発足した平成30年には、まず情報交換などを通じて互いの交流を深めるところからスタートした。令和元年には、池庄町の防災運動会の見学を行なった。こうした活動方針を引き継いでいくことで一致したが、その前に今年になって市から配布された「防災マップ」の活用法について勉強したいという声が上がった。そこで、次回のブロック活動において、それについての講習会を行うことが決定された。

これは支所ブロックだけに限らない重要な課題である。せっかくのマップが、利用法がわからないばかりに死蔵されてはもったいない。ここに載っている情報をどう読んで、どう活かしていけばいいのか。それはすべての自治会に共通する問題ではないだろうか。

そう考えていたところ、湖東地区自治会連合会が来年1月に実施する研修において、「防災マップについて」が取り上げられることになった。こと防の村田代表に相談したところ、「ナイスタイミングだ。うちもそれに相乗りさせてもらおう」ということになった。あとはコロナの第6波が襲ってこないことを祈るばかりだ。



☆永源寺地区の防災講演会に潜入！

永源寺コミセンで防災講座「コロナ禍における避難所の運営について」が開かれ、同地区の自治会長などおよそ40名が参加した。この催しに、食いしん防は決死の潜入をして、情報収集を行なった。

講師は、福祉防災コミュニティ協会の上級コーチ湯井恵美子氏。兵庫県立大学で防災の研究をされている氏の講演を、食いしん防は以前にも受けたことがあった。とても熱血な講演という印象が残っていたが、この日も熱い語りは健在で、ほぼ3時間に渡ってノンストップでしゃべり続けだった。

演題にあったコロナ禍対応についてより、災害時の避難行動や避難所生活において配慮が必要な人（高齢者・障がい者・持病のある人・日本語の通じない外国人など）をどう支援していくかが中心。「誰もが助かる防災」というキーワードは、食いしん防が進めようとしている「誰も取り残されない防災」にも通じるテーマで、とても参考になった。

後半は、5人ずつのテーブルでHUG（避難所運営ゲーム）を体験。災害直後の

修羅場において、避難所にやって来る要配慮者にいかに対応していくか。模擬体験を通じて、参加者はその難しさや必要性を感じ取っていた。

コミセン主催のイベントだったが、まち協や自治連も応援しての実施。わが地区としても見習うところが多いと感じた
食いしん防でした。



今後の活動予定

- 12月23日 市内まち協・自治連代表者研修において、こと防が事例発表
令和4年
- 1月21日 こと防・自治連合同研修（湖東コミセン多目的ホールにて）

※ 出前講座の申し込み受け付けます！

勝手にQ&Aコーナー

- Q：来年1月の防災マップについての研修は、誰でも参加できるのですか？
A：各自治会で最大3名まで参加できます。正副自治会長と防災推進員を想定していますが、それ以外で希望される方は湖東まち協にご相談ください。
Q：食べ物や個人的な思い出話でなく、まともなことが書かれているので驚きました。頭でも打ったのではないかと心配です。
A：ご心配おかけして申し訳……って食いしん防をどんな人間とってんじゃあ！
いっつも食べ物のことばっか考えてるわけじゃない。5分に1度くらいしか考えてないわい。そういやそろそろお腹が……

楽しい質問、お待ちしております！

（文責：こじまっちょ）

